

目次

1. 2026-27年度 クラブリーダーシップラーニングセミナー 次第	2
2. クラブ別出席者名簿	4
3. 女子栄養大学 坂戸キャンパス構内案内図・分科会案内図	6
4. 2026-27年度 国際ロータリー会長メッセージ	7
5. 2026-27年度 地区行動指針	11
6. ガバナー挨拶	16
7. 2026-27年度 地区ラーニングファシリテーター挨拶	17
8. 2026-27年度 ガバナー補佐挨拶	
第1グループ南	18
第1グループ北	19
第2グループ	20
第3グループ西	21
第3グループ東	22
第4グループ東	23
第4グループ西	24
第5グループ西	25
第5グループ東	26
9. 2026-27年度 地区幹事挨拶	27
10. 2026-27年度 地区委員長挨拶	
地区戦略計画委員会	28
RLI委員長	30
国際大会推進委員会	31
ロータアクト委員会	32
職業奉仕委員会	33
会員増強委員会	34
公共イメージ委員会	35
社会奉仕委員会	36
国際奉仕委員会	37
青少年プログラム委員会	38
ロータリー財団委員会	39
ロータリー米山記念奨学委員会	40
11. 2026-27年度 審議事項	
(1)2026-27年度地区予算（案）	41
1名当り半期地区賦課金（案）	42
(2)次年度クラブリーダーシップラーニングセミナーホストクラブ（案）	42
12. 2026-27年度 資料	
送金カレンダー	43
地区カレンダー	45
地区役員組織図	46
クラブ数・会員数推移	47

2026-27年度 国際ロータリー 第2570地区 クラブリーダーシップラーニングセミナー 次第

日時 2026年4月19日(日)
会場 日本栄養大学

進行 ホストクラブ副実行委員長 友田 雅明

【第一 本会議】 10時から12時00分

1. 点鐘 ガバナーエレクト 原島 生慈
2. 開会の言葉 ホストクラブ実行委員長 梅澤 將明
3. 国歌斉唱「君が代」
4. ロータリーソング斉唱「奉仕の理想」
5. 挨拶 ガバナー 相原 茂吉
ガバナーエレクト 原島 生慈
次年度地区ラーニングファシリテーター 五十幡和彦
6. 来賓ご挨拶 坂戸市長 石川 清 様
学校法人香川栄養学園理事長 香川 明夫 様
7. 感謝状贈呈 ガバナーエレクト 原島 生慈
8. 歓迎の言葉 ホストクラブ会長 岡部みゆき
9. 次年度地区役員紹介 ガバナーエレクト 原島 生慈
10. 2026-27年度国際ロータリー
「RI会長テーマ並びに地区方針」 ガバナーエレクト 原島 生慈
11. 提案
(1) 次年度分担金及び予算承認の件 次年度地区幹事 太田 雅孝
(2) 次年度クラブリーダーシップラーニングセミナーホストクラブ承認の件
(3) その他
12. 「会員増強委、新クラブ、クラブでの体験について」
国際ロータリー日本事務局 会員増強・体験推進室
会員増強オフィサー 縄田 怜 様
13. ガバナーノミニ紹介 指名委員会委員長 相原 茂吉
ガバナーノミニデジグネット紹介
14. ガバナーノミニ挨拶 ガバナーノミニ 五十嵐敦子
15. ガバナーノミニデジグネット挨拶 ガバナーノミニデジグネット 齊藤 大祐
16. 諸事お知らせ

昼食 12時00から12時50分

〈昼食後は各部門別ラーニングセミナー会場にご移動ください〉

17. 委員会別ラーニングセミナー 12時50から14時00分

「部門方針」「委員会事業方針」

〈委員会別ラーニングセミナー終了後は、本会場へお戻りください〉

【第二 本会議】 14時15分から15時30分

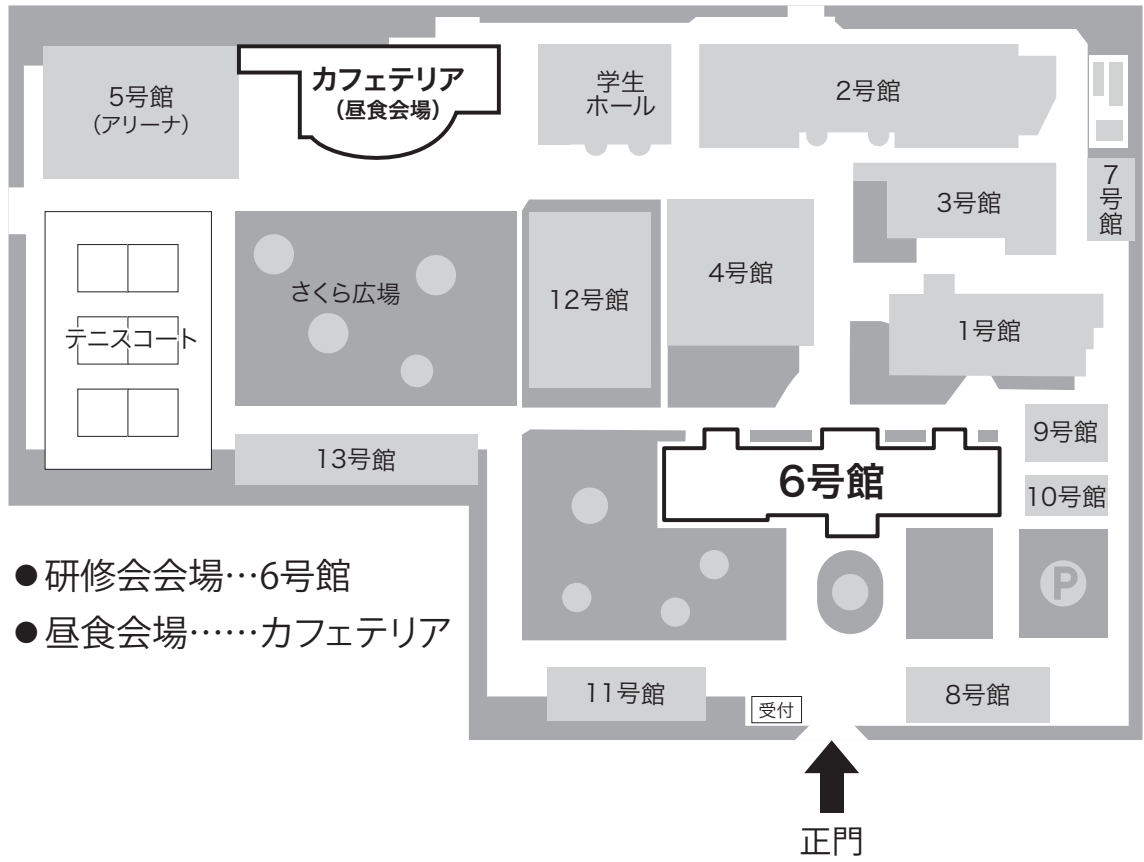
- | | | | |
|------------------|------------------------|----|----|
| 18. 各リーダー発表（各5分） | 各委員会委員長・統轄委員長他 | | |
| 会長部会 | ガバナーエレクト | 原島 | 生慈 |
| 幹事部会 | 次年度地区幹事 | 太田 | 雅孝 |
| 職業奉仕委員会 | 次年度職業奉仕委員会委員長 | 島田 | 敏郎 |
| 会員増強委員会 | 次年度会員増強委員会委員長 | 山田 | 哲也 |
| 公共イメージ委員会 | 次年度公共イメージ委員会委員長 | 須田 | 礼子 |
| 社会奉仕委員会 | 次年度社会奉仕委員会統轄委員長 | 金井 | 福則 |
| 国際奉仕委員会 | 次年度国際奉仕委員会統轄委員長 | 廣橋 | 宣光 |
| 青少年プログラム委員会 | 次年度青少年プログラム委員会統轄委員長 | 高橋 | 貴子 |
| ロータリー財団委員会 | 次年度ロータリー財団委員会統轄委員長 | 細渕 | 克則 |
| ロータリー米山記念奨学委員会 | 次年度ロータリー米山記念奨学委員会統轄委員長 | 一柳 | 達朗 |
| 19. 講評 | 次年度副ガバナー | 高丹 | 秀篤 |
| 20. 次年度ホストクラブ挨拶 | 狭山中央RC会長エレクト | 渡邊 | 高治 |
| 21. 閉会の言葉 | ホストクラブ幹事 | 清水 | 純一 |
| 22. 点鐘 | ガバナーエレクト | 原島 | 生慈 |

2026-27年度 クラブリーダーシップラーニングセミナー クラブ別参加者名簿

		会長部会	幹事部会	会員増強委員会	公共イメージ委員会	
1 南	1	川越	野溝 守・小高 章・ 斉藤 智	近藤 武弘	町田 明美	中野 文夫
	2	川越小江戸	福山 健朗	(野口 早百合)	金子 貞男	新井 祐司
	3	川越西	久保田 徹	矢部 努	肥沼 靖久	伊藤 晴之
	4	川越中央	橋本 直哉	岡田 博	田中 秀樹	長堀 洋
1 北	5	東松山	(白江龍三)	飯島 徹	松本 輝美	(飯島 徹)
	6	坂戸	関口 記嗣	清水 康弘	福田 博樹	竹島 弘康
	7	越生毛呂	小川 唯一	澤田 巖	磯 哲也	藤島 弘士
	8	鶴ヶ島	森治 高央	向井 宏倫	加藤 拓	田中 憲一
	9	坂戸さつき	鈴木 宏	野口 浩之	笠間 益伸	清水 純一
	10	東松山むさし	笠原 徳之	瀧澤 浩	鯨井 美知子	宮村 明彦
2	11	朝霞	飯田 豊・栗山 昇	栗原 忍	(高橋 克安)	(陶山 憲雅)
	12	志木	國分 学・星野 博之 (金剛 光裕)	影山 和良	高橋 良	三上 隆俊
	13	富士見	日鼻 靖	長根 章浩	齋藤 茂	浅見 隆広
	14	新座	龍山 利道	村上 俊之	森田 輝雄	森 克己
3 西	15	入間	繁田 光	新井 格	細田 浩司	滝沢 文夫
	16	飯能	市川 昭	伊澤 健司	坂本 淳二	(小谷野 大典)
	17	日高	白井 威	齋藤 由貴	古本 良子	和田 貴弘
	18	新狭山	新井 敏夫	西澤 長次	伊藤 宣明	
	19	入間南	高橋 一彰・齋藤 良徳	近藤 勝美	石川 伸一	花島 大祐
	20	狭山中央	渡邊 高治	小林 奈保絵	(清水 幸彦)	栗原 成実
3 東	21	所沢	日向 貴一	二上 昌弘	井関 克行	(吉田 慶)
	22	新所沢	國分 義明	(近藤 吉浩)	(土方 芳夫)	吉澤 巧
	23	所沢西	木下 精基	宮崎 光正	岡川 拓之	鈴木 真澄
	24	所沢東	三木 由紀郎	小澤 大悟	本橋 孝敏	小澤 潤
4 東	25	深谷	下境 将寛	押野見 孝道	(小内 睦夫)	大谷 まり子
	26	岡部	内田 勝一	黒津 昇	知念 ポール	大谷 綾子
	27	深谷東	荒木 正和	飯塚 昇	(村岡 敏弘)	(廣橋 宣光)
	28	深谷ノース	山川 大輔	高田 幸生	横田 政弘	平井 博
4 西	29	本庄	巴 高志	高橋 豊	(永井 保之)	須田 礼子
	30	秩父	若林 俊明	新井 高広	關根 昭文	岡部 浩之
	31	寄居	荻野 真仁	吉田 昌弘	(赤坂 匠康)	(加藤 祐司)
	32	皆野・長瀨	山田 利明	小埜 和也	高田 富康	(畝 徳治)
5 西	33	熊谷	富田 満・柿沼 伸幸 ・松崎 邦夫	秋山 恵一	山口 寿人	鯨井 隆行
	34	熊谷籠原	新井 政良 (茂木 祐一)	来間 直也	木村 将義	中村 広喜
	35	熊谷南	鈴木 聡	廣瀬 功	植野 智恵子	川岸 勝
5 東	36	行田	清水 龍男	松岡 保	齋藤 渉	野口 一信
	37	羽生	石川 篤信	奥貫 雄大	(小谷野 俊宏) 長澤 允	堀口 雄一朗
	38	加須	橋本 義久	平井 千寿生	大川 俊行	(中島 正和)
	39	行田さくら	飯塚 秀司	山岸 泰輔	(大谷 文孝)	阿部 秀二郎
	40	吹上	上岡 常浩・鈴木 秀憲	遠藤 裕幸	(馬橋 丞男)	(馬橋 丞男)

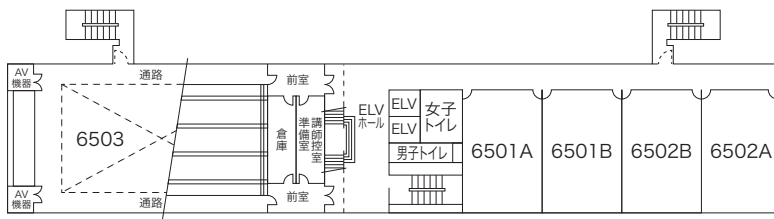
職業奉仕委員会	奉仕プロジェクト		青少年プログラム委員会	ロータリー財団委員会	R米山記念奨学委員会
	社会奉仕委員会	国際奉仕委員会			
荻原 之彦	(荻原 之彦)	廣瀬 哲也	堀尾 泰崇	住谷 治男	山崎 共子
福島 昇	(發智 金一郎)	新井 康夫	(松本 亮)	松川 厚子	(西澤 孝夫)
(山本 敬) 代理 田村 宏	大原 千晶	(吉野川 裕之) 代理 大原晶子	定森 隆	田村 隆	須永 昇
川合 善明	(田中 秀樹)	久保田 一男	木村 和之	(有岡 俊高)	内田 卓之
(春日 佑介)	(安藤 和俊)	(大塚 亮)	(柳澤 武秀)	(中澤 義明)	(中島 丞司)
松崎 陽治	(鹿ノ戸 健次) 代理 吉川朋宏	三村 隆司	笠間 曹一郎	鹿ノ戸 健次	渡辺 恭一
(藤島 弘士)	(浅見 清)	(浅見 清)	(澤田 巖)	市川 治子	(磯 哲也)
市川 大	山田 一希	新井 佑太	佐々木 龍児	横山 明美	西澤 克己
益子 博	関根 則雄	吉田 晴一	友田 雅明	渡辺 和夫	岡部 みゆき
(宇津木 智)	川野 今朝治	(柳下 武司)	中村 善博	野口 健吉	小藤 恵美子
(櫻井 元)	池田 愛	大畑 茂	高橋 克安	(榎本 晋一)	(高橋 克安)
吉原 正	白井 義尊	大村 相基	西川 和人	(宮原 俊介)	(金剛 光裕)
松本 伸一郎	涌井 英樹	松本 伸一郎	伊藤 学	星野 信吾	羽石 隆
山腰 拓実	石原 勇介	鈴木 明子	小泉 哲也	(村上 俊之)	(高沢 幹久)
(一柳 達朗)	(田中 快枝)	(山根 輝彦)	杉田 宏充	駒形 一人	金井 祐一
(本橋 勝)	大野 泰規	(服部 融亮)	吉澤 文男	矢島 高明	川口 浩
	内海 伸幸		小坂 雅彦	李 濬姫	清水 貴博
石川 幸男	竹内 克	松本 二三男	小川 正幸	田口 勇男	脇 博喜
(定村 健志)	粕谷 武司	(武藤 勇弥)	石田 徳一	(長谷川 渉)	(不破 隆夫)
(宮岡 宏太郎)	菊田 邦彦	(清水 武信)	(稲見 淳)	若松 泰誼	(寶積 英彦)
本橋 敬明	吉田 慶	日高 勉	加藤 和伸	鳥居 由美子	(日高 勉)
(本田 光弘)	本田 光弘	中川 潤 (地区役員)	(中川 潤)	小阪 裕史	(小阪 裕史)
(朝日 和久)	(鈴木 伴忠)	高橋 和男	中 毅志	本橋 源太郎	(小山 伸之介)
(二上 圭吾)	大河原 秀雄・ 吉田 哲郎	(植村 元昭)	奥村 稔	(後藤田 大之)	谷畑 夏子
(今井 慶一郎)	(柿沼 宏行)	(足立 修平)	(大嶋 俊久)	(熊谷 俊子)	(清水 洋子)
田中 英雄	橋本 和行	戸塚 勇	福島 秀樹	西田 隆弘	三木 正行
荒木 学	(寺山 智久) 小林 弘満・真下 和貴	布施 正典	(岡 仁)	(柴崎 重雄)	
(川田 隆作)	(川田 隆作)	水島 章太	ズベールカーン	(坂田 光司)	坂田 光司
滝澤 博史	山崎 仁美	須永 秀和	関口 ユカ	(相川 浩一)	(坂本 優蔵)
(黒沢 剛)	黒沢 剛	金子 展明	宮前 勉	町田 靖夫	(町田 靖夫)
橋本 則彦	権田 功	森田 淳一	小鮒 哲夫	吉田 正博	豊田 康業
板谷 定美	(小埜 和也)	(小埜 和也)	小林 悟	(南須原 宏城)	(南須原 宏城)
大石 聡一	中島 正義	福島 良浩	大谷 公一	溝田 義信	森田 光春
(松本 誠)	(千葉 義浩)	清水 篤	並木 信二	(池田 敏和)	(大木 光二)
井上 哲孝	(小野寺 弘行)	吉田 祐史	日向 弘薫	(新井 聡之)	石井 一則
	小松 和弘	宮内 和弘	小林 群司		
岩本 一盛	(岩本 一盛)	(岩本 一盛)	丑久保 行紀	今井 正	(今井 正) 菅原 好章
谷山 誠	古澤 晃	穂山 正明	増田 幸樹	福島 秀年	(福島 秀年)
(中村 重継)	(田中 秀和)	田島 博夫	高橋 貴子	(梁瀬 里司)	(松岡 由浩)
(上岡 常浩)	(上岡 常浩)	(上岡 常浩)	(中西 忠夫)	馬橋 丞男	(馬橋 丞男)

》 日本栄養大学 坂戸キャンパス



6号館 教室割り当て表 4階・5階

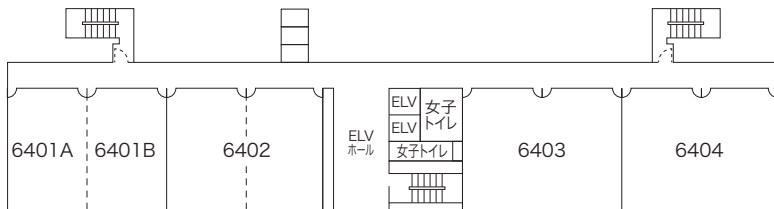
5階



5階

- 6501A 会長部会
- 6501B 幹事部会
- 6502A 会員増強委員会
- 6502B 公共イメージ委員会
- 6503 全体会議

4階

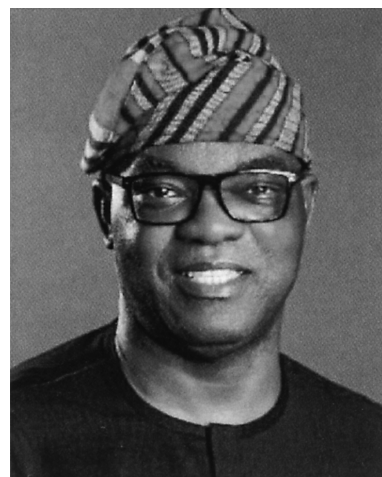


4階

- 6401A 米山記念奨学委員会
- 6401B 社会奉仕委員会
- 6402 職業奉仕委員会
国際奉仕委員会
- 6403 青少年プログラム委員会
- 6404 ローターリー財団委員会

CREATE LASTING IMPACT

～持続可能なインパクトを生み出そう～



2026-27年度 国際ロータリー 会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ
(ナイジェリア・トランス・アマディRC)

親愛なるロータリーの友人とファミリーの皆さま、おはようございます！2026年国際協議会に皆さまを歓迎し、地区ガバナーエレクトとなられたことをお祝いできることを光栄に思います。

世界中からロータリーのシニアリーダー、スタッフ、そして卓越した会員が集結し、皆さまが来年度に向けて準備を整えるお手伝いをいたします。また、この場を、ぜひ同期の仲間と交流を深める機会としてください。ロータリーの国際性を体験しなければ、会員としてのメリットを十分に享受しているとは言えません。今週、皆さまはロータリーの世界を体感することになります。

この機会を逃さないでください。たくさんの人と知り合い、友情を育みましょう。温かい言葉が、思いもよらないところへと皆さまを導くでしょう。

私が出会ったロータリー会員は、出身がどこであれ、親切で明るく、すぐに親友になれる人ばかりです。私たちのもう一つの共通点は、ロータリーが私たちを変えたということです。私たちという人間を形づくり、より良い人間にしてくれたのです。変化はここから始まるのです——奉仕を受ける方々だけでなく、私たち自身の中からも。

私たちのビジョン声明を考えてみてください：「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

私たちは「世界を変える」ことをよく話題にします。ポリオ根絶や平和構築について語ります。

地域社会を変えることについて話します。そこには無数の素晴らしい実例があります。

しかし、私はこう問います。「自分自身の中に持続可能な変化をどう生み出しているのだろうか」

ロータリー会員にこの質問をすると、たいてい場が静まり返ります。

その沈黙が物語るのは、ロータリーが自分自身をどう変えたかについて、私たちはあまり考えないということです。

ロータリーが：

- どのように私たちのキャリアを変えているか
- どのように私たちのビジネスを変えているか
- どのように私たちの家族を変えているか

それは最も暗い時代における光にもなります。米国ノースカロライナ州のキャリーキルディア・ロータリークラブ会員、ティア・コッパスさんにとってもそうでした。

2021年、ティアさんの夫は、19カ月に及ぶ闘病の末、癌で亡くなりました。夫の介護とCOVID-19のパンデミックによる隔離生活により、ティアさんは19カ月間、ほとんど誰とも会っていませんでした。そんな時、ティアさんが所属するロータリークラブの親友が電話をかけてきてこう言いました。「来週木曜日の夕食会に来てください。あなたに会いたいです」

緊張と不安の中、ティアさんはロータリーの夕食会に足を踏み入れました。しかし、席に着く間もなく、初めて会う新会員が彼女を抱きしめ、こう言ってくれました。「来てくれて本当によかった！」その瞬間、ティアさんは、自分が一人ではないこと、自分にはコミュニティがあることに気づきました。ロータリーこそ、彼女のコミュニティだったのです。

その夕食会の後、ティアさんはこの体験が自身に与えたインパクトについて、こうつぶっています。「ロータリーは、あなたが最も必要とする時に、静かに、愛情をもってそばにいてくれるのです。普段は自分が“与える”側にいたとしても、“受ける”側になってもいいんだと教えてくれるのです」

そしてこう続けます。「ですから、つながりと奉仕、居場所を求めているなら、ロータリーがその答えとなるでしょう」。この言葉に共感できる方も多いと思います。

友人の皆さま、ロータリーは世界を変えるために活動していますが、ロータリーが自分自身をいかに変えたかを伝えることを恐れないでください。

経験から言えることですが、ロータリーは私を深く変えました。

私は十代でローターアクターとして活動を始めました。恵まれた環境で育ち、良い教育を受けましたが、そのような機会を得られない人は大勢いました。

気づきをもたらしたのは、クラブの識字プロジェクトでした。地域社会の人びとに読み書きを教える支援をしました。母国の同世代の人たちが読み書きのスキルを持たずに成長すべきではないと考えました。

このプロジェクトが私を変えました。その変化は、教育へのアクセスを拡大するという責任を伴うものでした。この取り組みは、今日において特に重要です。ユニセフの推計によると、教育資金の削減により、今年末までに世界で約600万人の子どもが退学を余儀なくされる可能性があります。この教育危機に対処するには、「寄付」から「奉仕」へと意識を変える必要があります。

南アフリカのナイズナに素晴らしい事例があります。そこでは、ロータリークラブが教育分野で持続可能なインパクトを生み出しています。ナイズナ・ロータリークラブは2019年、地域のパートナーと協力し、2025年までに地域のすべての子どもが質の高い幼児教育を受けられるようにする方法を模索しました。地域社会からの協力も得て、問題の理解に努め、行動を起こしました。

その結果生まれたプロジェクトは、恵まれない地域の女性たちの力を解き放ち、幼児教育センターの開設と運営を実現させました。今日、このプロジェクトは何千もの子どもと家族を支援しています。今後も何世代にもわたり、教育を提供し続けるでしょう」

このインパクトを世界のほかの地域でも再現できれば、地域社会から信頼と評価を得ることができます。そして、より多くの地域社会がロータリーを信頼すれば、入会したいという人が増えます。しかし、まずはそのような人びとを受け入れなければなりません。

当たり前のように聞こえるかもしれませんが、これは私たちが長年苦勞している課題です。若きローターアクターとしてロータリーに入会しようとした時、私は抵抗に遭いました。

ある日、私はクラブの昼食例会に行きました。以前にも招待を受けて参加したことがありました。若いローターアクターだった私を見て、そのクラブの会長は「ここで何をしているんだ？」と言いました。ロータリーに入会するためだと、私は答えました。会場にいた全員が振り向き、私を見ました。彼はこう言いました。「何という厚かましきだ！ただ入会できるわけがないだろう。招待が必要だ」と。そこであきらめることもできましたが、私はこう言い返しました。「子どもが親の家に入るのに招待

が必要だとは知りませんでした」

会場が沈黙に包まれる中、ソジ・フォウォデさんというロータリアンがこう声を上げました。「インカ、私が君を推薦するよ」

こうして私はロータリアンになったのです。

しかし、もしソジさんが声を上げてくれなかったら？私が会員になることはなく、今日こうして皆さまの前に立つこともなかったでしょう。

当時よりは良くなりましたが、一部のクラブは、世界をオープンに受け入れるどころか、今も閉ざされたままです。

若い人の意見が尊重されなかったり、考えや背景が異なる人が歓迎されなかったりすることがあります。このような状況では、入会する見込みのある人びとを入会前に失ってしまうことになるのです。ロータリーにはもっと多くの会員が必要です。理事会は、2030年までにロータリアンを125万人、ローターアクターを12万5千人にするという会員増強目標を掲げています。この目標の達成は、私たち全員から始まります。

ですから、この国際協議会の開幕にあたり、皆さまには、人びとをどのように迎え入れるかを考えていただきたいと思います。例会や奉仕プロジェクトでの皆さまの態度ひとつで、誰かのロータリーのストーリーが始まるかもしれないし、終わるかもしれないのです。

これが、私たちが目標を達成する方法です。皆さまが地区の目標達成を導けば、ロータリー全体の目標を共に達成できます。しかし、地区の目標が何であれ、特に会員増強については、ご自分のベストを超えていただきたいと思います。

従来、最も多くの資金を集め、最も多くの会員を集め、最も大規模なプロジェクトを実施するクラブが称賛されてきました。

これは重要なことです。ただし、最も健全な競争は、クラブ間ではなく、過去と現在との間であるべきです。

過去5年～7年を振り返っていただくよう、それぞれの地区とクラブをお願いします。会員増加で最高を記録した年度はいつでしたか？ファンドレイジングで最高を記録した年度はいつでしたか？最も大きなインパクトをもたらしたプロジェクトは何でしたか。

それらの年度がわかったら、その最高記録を超えていただきたいのです。

皆さまは、人生のうち1年間を地区ガバナーとして過ごします。皆さまがリーダーを務めるこの1年を振り返った時、人びとにどのような年度であったと言ってもらいたいのですか？人びとがいかに多くのことを覚えているかに驚くでしょう。

最高だった年度の入会者が10名だったなら、少なくとも11名を目指すべきです。数年前に5万ドルを募金したなら、次年度は5万5千ドルを目指してみてください。ほかよりも優れていることを証明するためではなく、自分たちが最高の形になるためです。

こんな格言あります：

「グッド」から「ベター」、そして「ベスト」へ。

歩みを止めてはならない。

「グッド」が「ベター」になり、「ベター」が「ベスト」になるまでは。

この考え方は、クラブや地区に当てはまるのと同様、私たち自身にも当てはまります。「変化」と「インパクト」を常に意識するマインドセットが必要です。

「変化」と「インパクト」は同じではないということ覚えておくことが大切です。変化は始まりに過ぎません。インパクトこそが永続するのです。

ロータリーの大規模プログラム補助金による「健康な家族のための協力」が数年間実施されているナイジェリアでの事例を紹介します。

プログラム開始から間もない頃、私は試験的都市にある保健センターを訪問しました。自分の目で見

たかったのです。

主任医師は、私がロータリー会員であるということだけ知っていました。

彼は私を温かく迎え、約18カ月前からロータリーと協力していること、協力の開始後間もなく乳児死亡率と妊産婦死亡率が急激に低下したことを話してくれました。

ロータリーが介入する前は、多くの女性が妊婦健診を避けていました。しかし、健診は母子ともに安全な出産に欠かせません。ロータリーの支援により、妊婦が健診に通うシステムが整い、地域社会からの協力も得られました。受診率がアップし、死亡率が下がりました。

医師と話した後、私は、このプロジェクトが今後数十年にわたりナイジェリア全土で命を救い続けるであろうことを、はっきりと見ることができました。これこそが、私が「持続可能なインパクト」と呼ぶものです。

ロータリー会員である私たちは、より良い未来というビジョンを共有しています。それは、ポリオのない世界、平和な世界、誰もが質の高い教育を受けられる世界です。

そのビジョンを現実にするには、自身の内なる変化を意識し、解き放たなければなりません。「成果」だけでなく、「インパクト」を重視すべきです。

ティアさんがロータリークラブの夕食に招待されたことの「成果」は、彼女は孤独を感じなくなったことです。しかし、その「インパクト」は、彼女とクラブの仲間が生涯にわたって希望とコミュニティ意識を持ち続けることです。

ナイジェリアでの「健康な家族のための協力」の「成果」は、乳児と妊産婦死亡率の低下です。しかし、その「インパクト」は、今日だけでなく、世代を超えてずっと、子どもたちが母親の愛情と導きのもとで育つということです。

私たちは、2030年の会員増強目標を必ずや達成します。その達成による「成果」は、世界のロータリー会員が増えることであり、ロータリーがある場所では良いことが起こることを私たちは知っています。その「インパクト」は、今後も長年にわたり、より強く効果的なロータリーが築かれることです。友人の皆さま、その未来は私たちから始まります。しかし、それは私たちのロータリーでの活動が終わった後もずっと続かなければなりません。この理由により、2026-27年度の会長メッセージは「持続可能なインパクトを生み出そう」です。

持続可能なインパクトを生み出す方法は数多くあります。世界的には、ポリオ根絶という約束を果たすこと、そしてロータリー平和センターの恩恵を最大限に活かすことを意味します。

クラブと地区では、より多くの人を迎え入れ、2030年会員増強目標の達成に向けて役目を果たすことを意味します。

そして皆さまは、人びとが好奇心を持ち、問いかけをし、ロータリーファミリーに与えられた無限の可能性を受け入れて自分自身の中に持続可能なインパクトを生み出せるよう、インスピレーションを与えることができます。

結果を出し、自分の中に持続可能なインパクトを生み出すことへの意欲をクラブと会員にどう喚起できるかを考えてください。

進歩は自ずと起きるものではありません。それ自身の内なる変化から始まります。

親愛なる地区ガバナーエレクトの皆さま、成功とは向こうからやって来るものではありません。自分でつかみに行かなければならないのです。

自分を変えられれば、クラブと地区を変えられます。地区を変えられれば、地域社会を変えられます。そして、地域社会を変えられれば、世界で、地域社会で、自分自身の中で、持続可能なインパクトを生み出すことができるのです。

朋友の皆さま、ありがとうございます。国際協議会へようこそ。

2026-27年度 地区活動方針

2026-27年度 国際ロータリー 第2570地区

ガバナー 原島 生慈
(秩父RC)



『ロータリー活動に誇りを！』

世界のロータリアンと接するたび、その漲る活気に圧倒されます。

彼らが生き生きとしている理由。それは、日々の小さな奉仕から大きなプロジェクトまで、あらゆる活動に確固たる「誇り」を持っているからです。

昨今、会員減少や例会の形骸化といったネガティブな課題が議論の主役になりがちです。

しかし、本来のロータリーはそうではありません。私たちのいかなる活動も、必ず社会のどこかで誰かの役に立ち、「持続可能なインパクト」を世界にもたらす価値ある歩みです。

会長の皆様をお願いしたいのは、まず自らがその価値を再認識し、誇りを持って行動することです。

課題を憂うだけでなく、ロータリーの可能性を信じ、その素晴らしさを背中で語ってください。

皆様が誇りを持って放つ輝きこそが、クラブの活力を呼び覚まし、次世代へと続く変化の力となります。

共に、誇り高きロータリーの未来を切り拓いていきましょう。

今年度のRI会長メッセージは「UNITE FOR GOOD」、次年度は「CREATE LASTING IMPACT」。

表現は違っても、これは別々のメッセージではないと考えます。むしろ「同じ方向を向いた連続したメッセージ」と捉えるべきだと思います。UNITE（団結）は目的ではなく、手段です。力を合わせることで、より大きな「良いこと」を行い、その成果を“未来に残る価値”へと昇華させていく。その到達点こそがIMPACTではないでしょうか。

つながりが信頼を生み、歓迎の姿勢が参加を生み、行動が変化を生むのです。ロータリーの価値は、そこで生まれる「持続可能なインパクト」にあるのでしょうか。ババロラ会長エレクトの発信は、まさにその一点に集約されていると感じました。

RI会長メッセージの中で、変化とインパクトは異なる。変化は始まりであり、インパクトは持続しなければならないものであるという話が象徴的でした。

「変化」と「インパクト」は同じようで全く異なり、変化は“きっかけ”、インパクトは“未来に残る結果”なのだと、私も強く感じ、私たちが取り組む奉仕や会員増強も、実施した瞬間の成果で終わらせず、地域の中で根づき、継続し、次の世代へつながっていく形にしてこそ意味があります。変化に満足するのではなく、その変化を積み重ねて「持続可能なインパクト」に高めていく…。この視点を常に忘れずに行動していきたいと思います。

2026-27年度は、2024-25年度五十幡年度から坂口（相原）年度そして原島年度の3-year Rolling Goalsの最終年度です。改めてRIは継続性の重要性を強調します。私の年度で終わるのではなく、次の五十嵐年度、齋藤年度へと継続していく事も大切です。また、各クラブが2024-25年度に設定した「3年後、自分たちのクラブがどうなっていたいか」という目標設定を達成するために地区ガバナーとして、公式訪問等で各クラブの会員の皆様と一緒に考えたいと思います。

各委員会活動の前提：地区はクラブに為に

地区の目的は、ロータリークラブを強化し支援することである。地区が特定の奉仕プロジェクトやプログラムを完遂することは必須とされていないこと（章典17.010.1）を十分に理解し、活動する。

- ▶ 会員増強委員会（仲間への誇り）「最高の仲間と、選ばれた誇りを分かち合う」
「数」を追うだけでなく、ロータリーの理念を正しく伝え、入会したことがステータスであり喜びであると感じてもらう。
- ▶ 公共イメージ委員会（認知への誇り）「魅せるロータリー、憧れられる誇り」
ロータリーのバッジをつけて街を歩くのが誇らしくなるよう、活動を洗練された形で外部へ発信する。
- ▶ 社会奉仕委員会
今年度は「子供の貧困」を重点課題とし、社会奉仕委員会の立案による地区活動を年2回実施して欲しいと思います。各グループの補佐は、全会員が当事者としてこの問題に向き合い、参加できるよう力強く呼びかけてください。全員参加で知恵を絞り、行動することで、地域に「持続可能なインパクト」をもたらします。真摯な奉仕を通じてロータリアンの「誇り」を再認識し、全地区一丸となって子供たちの未来を支えましょう。
- ▶ 国際奉仕委員会
ポリオ根絶活動、米山記念奨学会との連携、青少年交換への協力等を踏まえた新たな目標づくりをお願いします。
- ▶ 青少年プログラム委員会、米山記念奨学記念委員会
今年度の活動を継続発展させて、会員への周知に努めていただきたいと思います。
- ▶ ロータリー財団委員会（実績への誇り）
寄付やプロジェクトの結果を数字だけで終わらせず、「これだけの笑顔を作った」というストーリーの可視化ができるようにしていただきたいと思います。
- ▶ 職業奉仕委員会
ロータリーの根幹をなす理念を各クラブに浸透させる。

会長エレクトの皆様へのお願い

PELSの最大目的は、「次期会長としてのビジョンを明確にし、クラブ運営の準備を整えること」です。以下の点を検討し、クラブのリーダーとして誇りの持てる1年にしてください。

- 方針の理解：
国際ロータリー会長や地区ガバナーが掲げるその年度のテーマ（スローガン）を理解します。
- クラブ運営スキルの習得：
クラブの管理、会員増強、奉仕プロジェクトの立て方など、実務的な知識を学びます。
→MY ROTARYで学びましょう。
- 会長方針の策定：
クラブをどう導くかは会長次第です。しっかりと計画を立てましょう。
- ガバナー補佐との連携：
クラブの状況変化や困りごと等はガバナー補佐に相談します。

存分にリーダーシップを発揮してクラブの未来のための1年にしてください。初めての会長も複数回目の会長も、この年度がクラブ飛躍の初年度となれるよう一緒に頑張りましょう！

* DTLSで補佐の皆様には、クラブ会長へのお願いとして以下を伝えてあります。

- (1) 地区活動テーマ「ロータリー活動に誇りを！」の推進
公式訪問時のクラブ協議会ディスカッションにおいて「ロータリー活動に誇りを持てた経験」を発表する
- (2) クラブの奉仕プロジェクトをブランド化する
会員誰もが自分のクラブの行っている奉仕活動を、自信をもって語れるようにし、何をやっている団体なのか地域の皆様に分かってもらえるようにする
- (3) ポリオ根絶活動
 - ①クラブでポリオ根絶に関するイベントまたは例会、チャリティ活動を行う
 - ②RI第2570地区ポリオデーに参加する
- (4) 会員増強
 - ①各クラブ2名以上の会員数純増を達成する
 - ②ローターアクトを含め、新クラブ設立を推進する
- (5) ロータリー財団
ロータリー財団の寄付目標を達成する
- (6) ロータリーの基本理念の理解
年度計画書に「ロータリーの目的」、「四つのテスト」、「公式標語」、「行動規範」、「中核的価値観」「行動計画（指針）」を掲載する
- (7) クラブの活性化
 - ①標準クラブ定款、細則に基づいたクラブ定款、細則を作成する
 - ②CLPに基づくクラブ委員会組織に委員会を再編することを推奨する
 - ③クラブでの行動計画（指針）の理解と推進
 - ④3年間の目標と計画（3-Years Targets）
 - ・ロータリークラブ・セントラルに今年度の目標を100%入力する
 - ・ロータリークラブ・セントラルに3年間の目標を入力する

- ・会長、会長エレクト、会長ノミネーター間で3年間の目標を検討する
 - ⑤クラブの戦略計画を策定する
- (8) ロータリーラーニング
- ①ラーニングセンターのクラブ会長編を受講する（受講終了証明書を補佐に提出する）
 - ②マイロータリーの登録推進
 - ③クラブのリーダーとして会員がロータリーについて学ぶ機会を作る
 - ④RLIの受講推進

ガバナー補佐点検書類一覧表

1. ラーニングセンター修了証
 - ラーニングセンターの「クラブ会長の基本」の修了証
2. ロータリークラブ・セントラル
 - ロータリークラブ・セントラルを通じて目標等の報告
3. クラブ年度計画書
 - (1) ロータリー理念の年度計画書への掲載
 - (2) 標準クラブ定款、細則に基づくクラブ定款、細則
 - (3) CLPに基づく委員会組織
 - (4) クラブのポリオ根絶に関するイベント ※口頭説明でも結構です
 - (5) クラブの戦略計画を検討する委員会 ※口頭説明でも結構です
 - (6) クラブ所在地域の説明
 - (7) 会員名簿
 - (8) 充填及び未充填職業分類表
4. 各種記録簿（電子媒体での保存も可）
 - (1) 例会・出席・会員選考・会員移動・その他クラブ会員に関する記録綴
 - (2) 定例理事会・臨時理事会議事録
 - (3) 国際ロータリー事務局との発来簡綴
 - (4) 国際ロータリー日本事務局との発来簡綴
 - (5) 地区事務所との発来簡綴
 - (6) ロータリー財団関係の書類綴
 - (7) ロータリー米山記念奨学委員会関係の書類綴
 - (8) クラブ会報・ガバナー月信綴
5. 会計記録簿
 - (1) クラブ会計関係の書類綴
 - (2) クラブ財産目録

1. 訪問クラブ名	ロータリークラブ
2. 訪問日	年 月 日
3. ガバナー補佐氏名	

当表は、概ねガバナー公式訪問2日前までに地区事務所に送付する。

2026-27年度 戦略計画優先事項（3-Year Rolling Goals）

1. ロータリークラブの支援

- ・クラブ戦略計画立案のサポートをする。
- ・定款、細則の見直しを推進する。
- ・会員増強と維持…あらゆる人が歓迎されるクラブをつくる。

2. ロータリー財団への支援と活用

- ・ポリオの根絶に向けた活動を推進する。
- ・財団への寄付と活用を奨励する。

3. 次世代の支援・育成

- ・ローターアクトクラブ、青少年交換事業、米山記念奨学支援
- ・「子供の貧困」の問題に向き合い、地区活動に参加する。

4. ラーニング

- ・学習機会を拡大する。
- ・地区、クラブのリーダー及び3年未満会員の研修を実施する。

5. 地区のガバナンス

- ・地区の組織や運営を効率化、合理化する。
- ・会計の透明性を図る。

2026-27年度の戦略計画は、ロータリーの不変の理念を基盤としつつ、時代に即した『持続可能な組織への進化』を目指すものです。

私たちが取り組む5つの優先事項は、それぞれが独立しているのではなく、互いに連動して一つの大きな目的を果たします。

1. クラブの活性化によって多様な人材を受け入れ、
2. 財団への支援を通じて世界規模の奉仕の後押しを継続し、
3. 次世代の支援で未来のリーダーと共に歩み、あるいは地域の社会課題と向き合い、
4. ラーニングを通じて会員一人ひとりの知見を高め、
5. 地区ガバナンスの透明化により組織の信頼性を盤石にする。

これら一連のサイクルを回すことこそが、ロータリアン一人ひとりが描く『あるべき姿』を具体化し、地域社会、そして世界に対してより大きなインパクトをもたらす道です。各クラブがこれを自らの行動へと落とし込み、未来のロータリーを共に創り上げていきましょう。

ガバナー挨拶

2025-26年度 国際ロータリー 第2570地区

ガバナー 相原 茂吉
(川越RC)



「誇りと笑顔でRotaryを」

今年度より地区研修協議会がクラブリーダーシップラーニングセミナーと名称・内容が変わりました。研修trainingから学びlearningへの変化です。即ち受動的な研修から、interactive（相互に作用する）な学びへの移行であります。

さて次年度のオンラインカRI会長のテーマは「create lasting impact」であります。

ポールハリスの言葉に「Rotaryは変化しなければならない」があります。120年を経た今、ロータリーのビジョンは次の通りであります。「私達は世界で、地域社会でそして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」。そして行動すべき四つの優先事項のトップに「より大きなインパクトをもたらす」と謳っています。インパクト、それは変化の結果がどんな価値や行動を生むか！を意味します。

原島2026年度ガバナーのテーマは「ロータリー活動に誇りを」であります。ロータリー活動によって、自分自身に変化が生じ、その変化は自身や周囲に価値あるインパクトを与えるようになる。そして、その事に誇りを感じる事が、自分自身の輝きにつながる。その輝きが笑顔と活力、そして持続可能なインパクトを生み続けるのである。この事が正に原島エレクトの願いであると思います。

Rotaryは奉仕の理念の下、自分自身を磨く事を目的としております。自分を磨く為には、変化しなければなりません。その為には「知好楽」の言葉通り、Rotaryを知り、好きになりそして楽しむ事にあると思います。

Rotaryは価値観を共有できる仲間の集団です。お互いの繋がりが信頼を生み、歓迎が参加を呼びこみ、共に行動する事がよりいっそうの変化を生みます。

みなさん、一緒にRotaryを楽しみましょう。そしてロータリアンである事に誇りを持ち、和顔愛語を忘れずに周囲にimpactをもたらし、よい変化のstoryをたくさん作りましょう。

地区ラーニングファシリテーター挨拶

地区ラーニングファシリテーター 五十幡 和彦
(行田さくらRC)



地区はクラブのために

研修からラーニングへ

2023年7月より、国際ロータリーの研修モデルは「研修 (Training)」から「学習 (Learning)」へと移行し、それに伴い「クラブ研修リーダー」は「クラブ・ラーニングファシリテーター」へと名称が変更されました。このモデルの目的は、会員がロータリーについて主体的に学び、自発的に理解を深められるよう、対話や議論を促進することにあります。研修において一方的な講義を行うのではなく、参加者同士の意見交換や新たな気づきを得る場（ラーニング・セッション）をファシリテートすることにより、主体的に知識やスキルを身につけ、個々の成長を促します。それが結果としてクラブの活性化とリーダー育成につながっていきます。

地区委員会の活動のすべては、クラブのため、ロータリー会員のために

地区の役割は、クラブが活性化するようサポートすることです。会員増強委員会はクラブの会員増強を、公共イメージ委員会はクラブの公共イメージ向上を、社会奉仕委員会・国際奉仕委員会はクラブの社会奉仕・国際奉仕を支援することでクラブが活性化することが、地区委員会の一番の役割です。また青少年プログラム委員会、ロータリー財団委員会、ロータリー米山記念奨学委員会には、RIや日本のロータリーのプログラムを地区で推進する役割がありますが、同時に、クラブの青少年奉仕活動の支援や地区補助金の活用などを通じて、クラブの奉仕事業をサポートすることが大切です。

3大研修においても、その目的はロータリー憲章に「クラブを支援するようチームの意欲を高める機会を提供する」「次期クラブ会長の意欲を高め、協力関係を築く機会を提供する」「クラブ・リーダーシップチームの意欲を喚起し、協力関係を築く機会を提供する」と定められています。

オンラインカRI会長スピーチ「ロータリーが私たちが形づくり、より良い人間にしてくれた」

2026-27年度RI会長オンラインカ・ハキーム・ババロラ氏は、国際協議会の中で次のように述べました。「私たちの共通点は、ロータリーが私たちを変えたということです。私たちという人間を形づくり、より良い人間にしてくれたのです。」さらに、「ロータリーがどのように私たちのキャリアを変えているのか、ビジネスを変えているのか、家族を変えているのか」とも語っています。これはまさに「我磨く 事業も磨くロータリー」「入って良かったロータリー」です。ロータリーに入って良かったという思いと体験が、退会防止や会員増強につながり、ロータリーを発展させる最大の原動力になります。

地区ラーニング委員会 事業計画

1. 次期ガバナー補佐・地区委員長ラーニング
2. 3大セミナーの計画と実施
 - ・地区チーム・ラーニングセミナー
 - ・PELS (会長エレクト・ラーニングセミナー)
 - ・クラブリーダーシップ・ラーニングセミナー
3. 新会員セミナーの計画と実施

第1グループ南

第1グループ南 ガバナー補佐 大谷 龍之 (川越小江戸RC)



2026年-2027年度、第1グループ南ガバナー補佐を拝命いたしました小江戸ロータリークラブの大谷です。私たちは2570地区の多くのクラブ、そして私の所属クラブも、会員数が限られた中で活動しています。小規模クラブの現場では、例会運営、奉仕活動、役職の担い手など、一人ひとりの負担が大きくなりがちで、「継続すること」そのものに難しさを感じる場面も少なくありません。出席を維持すること、役割を引き受け続けることに、正直なところ重さを感じることもあるのが現実です。

しかし、その一方で、小規模クラブだからこそ実感できる価値も確かに存在します。人数が少ないからこそ、会員一人ひとりの存在がはっきりと見え、例会での一言や小さな奉仕が、地域の中で確実に誰かに届いていることを実感できます。顔の見える関係の中で行う奉仕は、規模は小さくとも、深く、長く、地域に根づいていく力を持っています。

ロータリーの価値は、活動の大きさや華やかさではなく、「続けること」によって生まれる信頼と、その積み重ねがもたらす変化にあると私は考えます。変化は一時的な出来事ですが、真の成果は継続によって地域に定着し、次の世代へと受け継がれていくものです。奉仕活動も会員増強も、その瞬間の結果だけで終わらせず、未来へつながる形にしてこそ意味を持ちます。

3-years Rolling Goalsの最終年度を迎える今、私たちに求められているのは、無理に背伸びをすることではなく、それぞれのクラブの実情に合った歩みを大切にすることだと思えます。小規模であることを弱みと捉えるのではなく、「少ないからこそできる奉仕」「少ないからこそ生まれる結束」を強みに変えていく。その姿勢が、結果としてクラブの活力となり、次の年度へと確実につながっていくはずで

ガバナー補佐として、現場の声に寄り添いながら、誇りを持って続けられるロータリーの形を皆様と共に考え、支えていきたいと思えます。

小さな一歩の積み重ねが、やがて地域に残る確かなインパクトになることを信じて。

「活動計画」

- 1) 今年度からIM（都市連合会）が無くなるため、それに代わるものを会長幹事会で話し合う。
- 2) 会員増強（維持）に務める。
- 3) 担当クラブの例会、各種会合、その他の行事に積極的に出席する。

第1グループ北

第1グループ北ガバナー補佐 神田 茂（東松山むさしRC）



2026-27年度、第1グループ北（東松山・坂戸・越生毛呂・鶴ヶ島・坂戸さつき・東松山むさしの6クラブ）のガバナー補佐を拝命しました。

原島ガバナーエレクトは、「ロータリー活動に誇りを！」を次年度のテーマとして掲げられました。ロータリアンは、世界でたくさんの「良い活動」をし、輝いています。その価値を再認識し、誇りを持って行動することが、次世代に続く変化の力と語られました。

当グループは会員数20～30名の比較的少人数のクラブが多いことが特徴です。少人数のクラブだから出来る、団結力と柔軟性を持ったクラブ運営、活気ある有意義な奉仕活動が、クラブでの体験を形づくり、ロータリー活動に誇りと輝きを感じることに繋がると考えます。次年度ガバナー補佐として、私は次のことを重点方針に掲げます。

- ・グループ細分化によるきめ細かなクラブ訪問
- ・会長幹事会を有意義な情報交換の場とする
- ・合同例会の斡旋による他クラブとの交流
- ・他クラブの成功体験の共有
- ・クラブを特徴づける奉仕活動の強化
- ・クラブの過去の奉仕活動の再認識
- ・柔軟で楽しい例会開催による参加と帰属意識の向上
- ・RLI参加へのお願い
- ・クラブが世界に繋がっていることの体験

ロータリーのロゴマーク「誇りのシンボル」が、ロータリアンの襟に輝く様、微力ではありますが、常に謙虚な姿勢を忘れず、各クラブと伴走するガバナー補佐として、一年間誠心誠意努めてまいります。寛容の心でご指導いただきたく、宜しくお願い申し上げます。

第2グループ

第2グループ ガバナー補佐 松岡 昌宏 (新座RC)



この度、第2グループガバナー補佐に就任が決まりました、新座ロータリークラブの松岡昌宏と申します。宜しくお願ひ申し上げます。ロータリー歴14年の若輩者ではございますが第2570地区の発展に寄与出来るよう益々の努力をしたいと思っております。私は、今までにクラブ幹事2回、会長を2回経験しております。昨年度は新座ロータリークラブの創立50周年式典を会長として経験させて頂きました。私の年度の会長テーマは「想いを紡ぐロータリー」とさせて頂きました。先人の築き上げたロータリー活動の歴史と遺産を次世代に紡いで、繋げていくことこそが私の役割と肝に銘じ、1年を過ごしました。「入って良かったロータリー」と思える瞬間を皆様は必ず体験しているはずです。

そのように思える機会が増えれば増えるほど、クラブの活性化につながり、一人一人のロータリアンが自信に満ちあふれ、その行動が廻りに感銘を与え、新しい会員を増やすことにもつながるものと信じております。

さて、足元を見渡しますと、次年度よりグループ分けが細分化され5グループから9グループになりますが、唯一分かれなかったのが第2グループです。私がロータリーに入会した頃は8クラブございましたが現在6クラブ、次年度からは1クラブが他地区に移籍、1クラブが親クラブに吸収合併と言うことで4クラブとなります。このような緊急事態に際し、がバナー補佐として、原島ガバナーをお支えしつつ、各クラブと地区との橋渡し役を務めながら、グループ内のクラブ間の親睦・交流を促しクラブ活動の活性化を図り、退会防止、会員増強を一丁目一番地として、ロータリー活動に勤しんで参りたいと考えております。「地区はクラブのためにある」というガバナーの言葉を胸に、各クラブのロータリアン一人ひとりが輝けるような例会作り、奉仕活動の一助となれるよう、ベテランのロータリアンのご指導を仰ぎ、補佐の立場から縁の下の力持ちとして、第2570地区の益々の発展の一助になれば良いと考えております。最後になりますが皆様が「ロータリー活動に誇りを！」もてるようなロータリー活動を進めて行く所存でございます。

第3グループ西

第3グループ西 ガバナー補佐 大河内 隆敞（入間南RC）



2026-27年度は2570地区が推進してきた3-year Rolling Goalsの最終年度です。これによって原島ガバナーはこれまでの流れを汲みながらもさらに次年度次々年度へと継続していくために様々な新しい試みを展開していこうとしています。まさにRI会長メッセージ「CREATE LASTING IMPACT・持続可能なインパクトを生み出そう」の具現化と言えるでしょう。

その中で最も大きな改革はかつて九つの分区があった頃のように9グループに細分化することです。これによってガバナー補佐が9名になり、RIが推奨する補佐の担当クラブ数4から8に合致します。その意図は様々ありますが、最も大事なものは補佐とそれぞれのクラブがより密接にかかわることが出来るという点です。

また、原島ガバナーはクラブ間の情報交換等は合同例会で行い、IMは必須にしないと英断致しました。これにもいくつかの理由がありますが、補佐が大きな労力を費やすIMをやらないことで、その時間や労力を各クラブの支援に回してほしいというのが最大の意図です。

私は第3グループ西に所属する入間・飯能・日高・新狭山・狭山中央・入間南の6クラブを担当させていただきますが、ガバナーの意向を汲んで「地区はクラブのためにある」という大前提のもとに、各クラブの会長幹事各位に寄り添い、共に歩んでまいりたいと思います。

また、IMに代わる合同例会については第3グループ全体で開催することも選択肢に入れ、会長幹事会等で相談しながら開催の方向で進めて参りたく存じます。

終わりに、これからの1年が皆様にとって「ロータリー活動に誇りを！」持てる1年になりますよう精一杯務めさせていただきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第3グループ東

第3グループ東 ガバナー補佐 野藤 修三 (所沢東RC)



2026～2027年度 第3グループ東のガバナー補佐を務めさせて頂く事になりました野藤修三です。

この1年間、貴重な体験をする機会を与えられた事に深く感謝しますと共に、精一杯原島ガバナーの下で更にロータリーを学び、実践して皆様と共に社会に貢献できるよう努めたいと思います。

ババロラRI会長の2026～2027年度のテーマは「持続可能なインパクトを生み出そう」を掲げられました。

ロータリー会員が協力し、地元や海外の地域社会で有意義な変化をもたらしていくことを奨励しています。

これを受け、第2570地区 原島ガバナーの2026～2027年度のテーマは「ロータリー活動に誇りを！」です。

自らがロータリー活動の価値を再認識し、誇りを持って地域社会で行動すること。誇りを持って放つ輝きでクラブの活力を呼び覚まし、未来を切り開いていきたいと思いますと呼びかけています。

因みに、私が（私たち所沢東RCが）誇りを持って毎年活動していることは、祭りでの綿菓子販売です。地域の皆様が1本でも多く買って協力していただけることに感謝し、その全ての収益金を地域の社会福祉施設へ寄付しています。

これら上位テーマを実践すると共に、第3グループ東の2026～2027年度のテーマは『吹け東風、美意延年』としました。

太陽が昇る方位である『東』は、風水学では木の気を持つ方位で若さや発展などを連想させる方位であり、木は土と水と『風』があって成長します。

『美意延年』は賀祝のひとつで情意がのびやかであれば自らの人生を楽しめるばかりではなく、周囲のみんなの喜びも合わせることができ、寿命を延ばすことができるという意味だそうです。

東から風が吹けば成長・発展し、親睦で心を楽しませれば長生きする。

ロータリーの奉仕活動は、自らが誇りを持ち楽しくなければ長続きしません。

また、友人にも勧められません。

皆様の益々の発展とご健勝を祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

そうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

第4グループ東

第4グループ東 ガバナー補佐 正田 康高（深谷東RC）



このたび、2026-2027年度 国際ロータリー第2570地区の第4G東の地区ガバナー補佐を拝命いたしました深谷東ロータリークラブの正田康高でございます。

歴史と伝統あるロータリーの地区運営に携わる重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございます。微力ではございますが、原島ガバナーを補佐し、担当クラブの活動をより円滑にし、地区とクラブのパイプ役として、活力ある第4G東となりますよう誠心誠意努めてまいります。

2026-27RI会長はナイジェリアのトランス・アマディ・ロータリークラブ所属のオラインカ・ハキーム・ババロラ氏が選出されました、会長のメッセージおよびテーマは『持続可能なインパクトを生み出そう』です、これは一過性の成果だけでなく、長期的に持続効果のある奉仕活動を呼び掛けています。

また、第2570地区原島ガバナーは『ロータリー活動に誇りを』をテーマにロータリーの可能性を信じ、共に誇り高きロータリーをの未来を切り拓いていくことが次世代に続く変化の力となると考えています。

ロータリーの中核的価値観を大切にしながら、第4G東西の相互の連携を深め、奉仕の理想の実現に向けて皆様と共に歩んでまいりたいと存じます。

皆様のご指導とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

第4グループ西

第4グループ西 ガバナー補佐 五十嵐 敦子（本庄RC）



新年度のスタートにあたり、地区内各クラブの皆様にご挨拶申し上げます。

このたび第4グループ西のガバナー補佐を拝命いたしました。その責任の重さと同時に、皆様と共に活動できることへの感謝の気持ちでいっぱいです。

2026-27年度オンラインカ・ハキーム・ババロラ国際ロータリー会長は「CREATE LASTING IMPACT」～持続可能なインパクトを生み出そう～とメッセージを発信されました。私たち一人ひとりの小さな行動も、心を込めて積み重ねていくことで、やがて地域の未来を支える大きな力になります。例会で交わす笑顔や言葉、奉仕活動で流す汗、そのすべてが持続するインパクトにつながっていきます。

2026-27年度原島生慈ガバナーは「ロータリー活動に誇りを」と地区活動テーマを掲げられました。私たちの活動が地域社会から信頼され、自らも胸を張って語ることができる、そんな活動の積み重ねが、ロータリーの価値を高め、未来へと繋ぐ力になっていきます。

今年度より、2570地区は従来の5グループ体制から9グループ体制へと移行いたしました。

地区のさらなる活性化と、よりきめ細やかな支援体制の構築を目指す新たな挑戦です。第4グループは西と東に分かれ、西は本庄ロータリークラブ、秩父ロータリークラブ、寄居ロータリークラブ、皆野・長瀬ロータリークラブ。新グループ再編は、新しい可能性の始まりです。クラブと地区の距離感を縮め、対話を重ね、それぞれの強みを生かしながら、第4グループ西としての連帯感を育ててまいります。クラブの声に耳を傾け、寄り添い、共に考え行動するガバナー補佐でありたいと思っています。例会が楽しい、奉仕活動が誇らしい、仲間との語り合う時間が心地よい。その積み重ねこそが、持続可能なクラブづくりにつながります。

私自身も常に学びの姿勢を忘れず、誇りを胸に、実り多き一年にしていきたいと思っています。

1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第5グループ西

第5グループ西 ガバナー補佐 中島 正義 (熊谷 RC)



「ロータリー活動に誇りを！」これが原島ガバナーの思いです。

その為にはクラブを含め様々なロータリー活動を継続させ発展させる必要があります。本年度、原島ガバナーは地区を9グループに分け第5グループも西と東に分割されました。今までテーマを決めて開催していたIMを、形を変えて各グループごと自由にコミュニケーションを図る機会を設営することなど、地域の特色を生かした手法で考える方向性になっています。我が第5グループ西は熊谷市内のロータリークラブのグループとなります。ガバナー補佐の役割は、地区の目標とガバナーの思いを補佐しクラブと地区を結び・つなぐことだと考えます。同じ地域内で活動をしているクラブの皆様と様々な問題点を共有し、変化に必要な知識と勇気を与えられるように皆様と一緒に活動したいと思います。第5グループ西 各クラブの例会に公式訪問以外にも出席させていただきたいと考えております。私も勉強を重ねていく所存でおりますので、皆様には寛容の心をもって接していただければと思います。一年間宜しくお願い致します。

第5グループ東

第5グループ東 ガバナー補佐 谷山 誠 (加須RC)



このたび、2026-2027年度第5グループ東ガバナー補佐を拝命致しました加須ロータリークラブの谷山と申します。

本来、地区は各クラブの為にあります。本年度私は地区と各クラブを結ぶ要としての使命を深く認識し、信頼と対話を基盤とした支援に全力を尽くします。

本年度RI会長のテーマである「CREATE LASTING IMPACT」そして2026-2027年度 第2570地区 原島ガバナーの方針である「ロータリー活動にほこりを！」という理念を共有しながら、各クラブが自らの強みを発揮し、地域社会に必要とされる存在としてさらに発展できるよう後押ししてまいります。

重点方針として、第一に「仲間への誇り」を掲げます。会員増強と維持に向けた具体策の共有、多様な人材が活躍できる柔軟なクラブ運営の推進を支援します。

第二に「認知への誇り」を進めます。地域ニーズに即した事業の展開を促すとともに、広報活動を強化し、ロータリーの価値と魅力を広く発信します。

第三に「社会奉仕活動の強化」に取り組みます。クラブ間の情報交換や合同事業の機会を創出し、好事例の共有によって相乗効果を高めます。

また、今まで同様にまた、今まで以上に国際奉仕、青少年奉仕、ロータリー財団、職業奉仕の、時代に即した持続可能なクラブ運営を支援します。各クラブの声に真摯に耳を傾け、共に考え、共に行動する姿勢を大切にしながら、地区とクラブが一体となって奉仕の輪をさらに広げていくことをここにお誓い申し上げます。

また、今までのインターシティミーティングに代わる合同例会を開催し、グループ内各クラブ間の交流や相互理解を通して大きなインパクトを地域社会に生み出しましょう。

一年間どうぞ宜しくお願いいたします。

幹事部会

幹事部会 太田 雅孝 (秩父RC)



クラブの活性化

2026-27年度国際ロータリー オンラインカ・ハキーム・ババロラ会長のメッセージは、「持続可能なインパクトを生み出そう」(CREATE LASTING IMPACT)です。

2026-27年度第2570地区原島生慈ガバナーは、「ロータリー活動に誇りを！」を掲げました。これらのメッセージを通じて、幹事の責務は、クラブ会長、役員と協力し、クラブの効果的な運営を担う事です。

会長を補佐しながら、クラブの活動が計画通りに進むよう事務的・実務的な面を統括する立場にあります。幹事の働きによってクラブの運営の質が大きく左右されると言っても過言ではありません。

幹事の基本的な役割は、クラブ内外の連絡・調整です。例会の開催案内、理事会の招集、会員への各種連絡事項の伝達など、クラブ運営に必要な情報を正確かつ迅速に共有することが求められます。また、会長や理事会で決定された事項を会員へ周知し、実行に移すために重要な役割を果たします。

以下、基本的な役割を記します。

1. MY ROTARYに自身で登録
2. クラブ幹事のEラーニング受講
3. クラブ運営を長期的に考えての組織づくり・予算組みをする
4. 理事会、委員会、例会、その他所会合の通知の発信、設営運営を行い、出欠の確認をする
5. クラブのPR、公共イメージUPにつながるクラブHPを活用する
6. クラブ内に寄せられた情報の管理・伝達をする
7. クラブの財務・会計・人頭分担金・財団寄付支払い管理
8. 記録・財産管理

幹事は決して目立つ役職ではありませんが、クラブ運営の基盤を支える大変重要な存在です。幹事の誠実な働きが、クラブの活力と発展につながります。

地区戦略計画委員会

戦略計画委員会 委員長 水村 雅啓 (入間RC)



1. ロータリーのビジョン声明と行動計画

2019年、「ビジョン声明」と今後5年間の「行動計画」(Action Plan)からなる新しい戦略計画を発表しました。

〈ビジョン声明〉

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取りあって行動する世界を目指しています。

ビジョンの目的は、組織を強化し、ロータリーの価値観を守り、これからも長期的に繁栄していくため、未来の方向性を定めることです。

《ロータリーの行動計画》

親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップという価値観を礎に、過去を称えながら未来を受け入れ、ロータリーが時代に即した組織としてさらに発展し、進化していくための指針となるのが行動計画です。

《四つの優先事項》

1. より大きなインパクトをもたらす (効果的なプロジェクト…)
2. 参加者の基盤を広げる (のあらゆる活動においてDEIを受け入れ実践…)
3. 参加者の積極的なかかわりを促す (会員であるかどうかを問わずにかかわるすべての人と…)
4. 適応力を高める (組織の適応力など運営方法の改善…)

2. 3年間の目標と計画 2024.7から

3年間の目標と計画 (3-Years Rolling Target / Plan) は、ゾーン、地区、およびクラブに対する3年間の目標とローリングターゲット (年度ごとに見直す) プランです。目標設定の具体的項目は「ロータリーの行動計画 (方針)」の4つの優先事項に基づいておこないます。

プログラムの評価は2027~28年にかけて行います。

達成可能な目標を立てた上で、進捗状況を随時確認し、状況に応じて調整を加えていきます。

●具体的な取り組み (クラブ)

- ・3年間の目標入力と管理は、「クラブセントラル」でおこないます。まずは次年度の目標を入力してみましょう。
- ・3年間の目標を設定するためには、向こう3年間の会長候補者や委員長、理事会などを巻き込んだ議論が必要になります。場合によっては委員長の任期を複数年にするなど、より継続性を担保する方法をクラブの新しい文化として取り入れる必要があるかも知れません。
- ・3年間の目標を立てたら、毎年目標の達成度を検証し、必要に応じて次年度以降の目標を再設定して下さい。

3. 地区の戦略計画

① 委員会の目的

ロータリーは毎年リーダーが代わるため、主たる方針が変わることを防がなければなりません。特に重要項目の達成に向けては確実な方向性を持ち続ける必要があります。この機能が戦略計画委員会であると考えます。2026-2027年度は、「3年間の目標と計画」の最終年度です。「当地区における改善の必要な分野の検討と対策」を実行し、永続的繁栄を追求することを目的にします。

② 地区戦略計画 優先項目 2024-2027

地区では、2024-2025年度（五十幡年度）に、以下の通り、地区の戦略計画優先項目を作成しました。

地区の目的は、ロータリークラブを強化し支援することである。地区が特定の奉仕プロジェクトやプログラムを完遂することは必須とされてはいないこと（章典17.010.1）を十分に理解し活動する

1. ロータリークラブの支援

- ・クラブ戦略計画立案のサポートをする
- ・定款、細則の見直しを推進する
- ・会員増強と維持…DEI（多様性、公平性、インクルージョン）を推進し、あらゆる人が歓迎されるクラブをつくる

2. ロータリー財団への支援と活用

- ・ポリオの根絶に向けた活動を推進する。
- ・財団への寄付と活用を奨励する。

3. 公共イメージの向上

- ・地区クラブのIT化を図る
- ・地区ホームページの充実を図る

4. ラーニング

- ・学習機会を拡大する
- ・地区、クラブのリーダー及び3年未満会員の研修を実施する

5. 地区のガバナンス

- ・地区の組織や運営を効率化、合理化する
- ・会計の透明性を図る

注) この戦略計画は3年間の計画であるが、状況に対応し毎年見直しする

4. 2026-2027年度 委員会活動

「地区戦略計画 優先項目」に沿い、原島ガバナーエレクトの方針を踏まえ以下の活動を行います。

- ①地区運営が共通の認識を持って、健全で、より発展的に実施されるために、地区運営マニュアルを作成する。
- ②クラブが将来のビジョンを明確化する「クラブ戦略計画」の立案をサポートする。
- ③「My Rotary」の活用とロータリー情報を地区、クラブのより良い活動のために提供し役立てる。
- ④地区リーダーであるガバナーエレクト、デジグネートのスムーズな選出を行うシステムを構築する。

RLI委員会

RLI委員会 委員長 新井 啓介 (行田さくらRC)



元気な強いクラブを創ろう

RLIとは、ロータリーリーダーシップ研究会 (Rotary Leadership Institute) の事です。RLIの目的は、ロータリアンの自主性と卓越した指導性を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育て、ロータリーを活性化することです。RLIは、デスクッション形式のセミナーです。実際に参加してみると、ロータリーの理解が深まったり、他のクラブの参加者と親しくなったり、良いコトがたくさんあります。是非参加してみてください。3回 (3日間) のセミナーを修了すると、ファシリテーターの資格が取得できます。そして、次はファシリテーターとして活躍してみませんか。以前、DL (デスクッションリーダー) を取得された方は、再度の受講で、FT (ファシリテーター) を取得してください。

〈RLIプログラムについて〉

RLIは、世界中の地域支部に組織された会員のための、草の根 (ロータリアン一人一人に対して) による多地区合同リーダーシップ開発プログラムです。RLIプログラムは、RI理事会によって推奨され、また3年ごとに開催される3回の規定審議会で、力強く支持されました。RLIは、最近クラブに入会した新会員を含めて、将来のクラブ役員候補者やその他のクラブ会員のために、質の良いリーダーシップ開発コースを実施してきました。RLIの各コースは、リーダーシップ技能や世界中のロータリーの知識を強調しています。すべてのコースは、すべて対話型となっています。RLIは、このリーダーシップ研修によってロータリーに対する情熱が沸き、ロータリーにさらに熱心に取り組むことで、会員維持にプラスの影響がでるものと信じています。RLIは、国際ロータリーの推奨プログラムです。RLIは、1992年にアメリカで始まり、2008年に日本に導入されました。第2570地区では2014~15年度 (坂本年度) に、RLI委員会が、発足致しました。RLI日本支部の地区代表委員は、加藤PG・高柳PG、現在は、坂本PGが務めています。

〈RLIセミナーへのご案内〉

1.参加して頂きたい方

- ①今年度、次年度の会長、幹事及び予定者
- ②ロータリーについてもっと知りたいと願う人
- ③3回終了していない方、ロータリアンならどなたでもOK

2.2026-27年度の予定

		日時	場所	
第1回	Part I	9月19日 (土) 9:00~17:00	本庄早稲田リサーチパーク	予定
第2回	Part II	11月7日 (土) //	//	//
第3回	Part III	12月19日 (土) //	//	//
第4回	FT養成セミナー	2月13日 (土) 13:00~17:00	//	//

3.申込方法と費用

- ①各クラブへクラブ会長宛で募集のご案内が届きます
- ②必ずクラブ内での募集をお願いします
- ③費用はご案内に書いてある通りです (計6,000円) 1回2,000×3
第1回目だけテキスト代として1,500円追加されます
別途、昼食代 (実費) を頂戴します

国際大会推進委員会

国際大会推進委員会 委員長 高丹 秀篤（深谷RC）



2027年5月に開催されるロータリーの世界大会への参加について、皆様にご案内させていただきます。

2026-27年度RI会長のメッセージは、「持続可能なインパクトを生み出そう」(CREAT LASTING INPACT)です。そして、2026-27年度第2570地区原島生慈ガバナーのテーマは、「ロータリー活動に誇りを！」です。

私たちは、価値感を共有する多くのロータリアンと奉仕の理念の下、例会をはじめとする様々な活動を行ないながら、友情を育てています。そして、基本理念の中にある世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進する事は、ROTARYの大きな力です。ロータリーの世界大会は、世界200以上の国と地域からロータリアンが集まる、まさに「ロータリーの祭典」です。普段、私たちはそれぞれのクラブや地区で奉仕活動を行っていますが、この大会では世界中の仲間と出会い、互いの活動や理念を直接共有することができます。言葉や文化を越えて結ばれる友情は、ロータリーならではの貴重な体験であり、多くの参加者が「ロータリー観が大きく広がった」と語ります。

2027年の開催地はドバイです。世界でも屈指の国際都市であり、未来的な都市景観と多様な文化が共存する魅力あふれる都市です。世界大会に参加することで、ロータリーのスケールの大きさを実感すると同時に、世界の仲間がどのような志を持ち、どのような奉仕活動を行っているのかを直接知ることができます。その経験は、私たち自身のクラブ活動や地域社会への奉仕にも新しい視点と活力を与えてくれるはずです。

また、クラブの仲間とともに世界大会へ参加することは、友情をさらに深める絶好の機会にもなります。共に学び、共に感動し、同じ体験を共有することで、クラブの結束もより強くなることでしょう。

滞在中に予定しているガバナーズナイトは、原島ガバナーへの感謝と五十嵐ガバナーエレクトに引き継ぎ、激励する大きなイベントです。

ぜひ皆様、2027年5月はドバイで開催される世界大会に参加し、世界のロータリアンとの出会いと学びを体験していただきたいと思います。皆様の積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

ローターアクト委員会

ローターアクト委員会 委員長 京野弘一（川越RC）



ローターアクトクラブは次世代のリーダーを育成し、地域社会や国際社会の発展に寄与する重要なプログラムです。当2570地区では、現在大学を基盤とする2つのクラブが活動しておりますが、今年度社会人を基盤とするクラブが誕生する予定です。他地区に比べるとまだまだクラブ数は少ないですが、他にも新たなクラブ設立に向けた準備も始まっており、委員会でもローターアクト活動を更に充実した価値のあるものとするために全力でバックアップしてまいります。ロータリークラブ会員の皆様におかれましては引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

委員会活動方針

ローターアクト活動の活性化と支援

- 各ローターアクトクラブの活動状況を把握し、必要な助言や支援を行います。また、地区内での合同プロジェクトの企画や合同例会を開催し、クラブ間の連携が深まるよう指導します。
- ローターアクターのリーダーシップの向上や、奉仕活動を活発に行うためのセミナーを開催します。また、ロータリアンとのメンタープログラムを推進し、経験豊富なロータリアンからの指導を受けられる環境を整備します。
- 地域の学校・企業・NPOなどと協力し、共同での奉仕活動やイベントの実施を支援し、地域社会への貢献度を高めるとともに、ローターアクトの認知度向上を図ります。
- ロータリークラブの会員に対して、ローターアクトの活動内容や成果を定期的に報告し、理解と協力を促進します。また、ロータリアンからの紹介や支援を通じて、ローターアクトクラブの新規設立と、新規会員獲得を目指します。
- ガバナー公式訪問の実現に向け、支援します。

関東ブロック研修会の開催と、他地区との交流推進

- 輪番で当地区がホストとなる「第38回ローターアクト関東ブロック研修会」の開催を支援し、成功へ導きます。
- 「第39回全国ローターアクト大会」への参加を支援します。
- 他地区のローターアクトクラブとの相互交流促進を支援します。

職業奉仕委員会

職業奉仕委員会 委員長 島田 敏郎（富士見RC）



職業奉仕は、他のクラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕と比べて「わかりづらい」「難しい」といった声をよく耳にします。職業奉仕はロータリー固有の考え方であり、特に日本のロータリークラブでは長い間、職業奉仕をロータリーの根幹として考え、その理念について盛んに議論がなされてきました。簡単に言ってしまうと、職業奉仕とは、「職業を通じて他者のためになることをすること」です。ロータリーは職業人の集まりですから、会員の皆様が普段の業務において「より良い品質」や「より顧客の満足度を高めるもの」を追求されている、それこそが職業奉仕なのです。

近年の国際ロータリーでは、職業奉仕をロータリーの五大奉仕の第二部門として改めて位置付けて考え、その実践に重きを置くという風潮が強まっています。2016年の規定審議会では、職業奉仕部門の定義が改定され、新たに「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる」という文言が追加されました。つまり職業奉仕については、その理念についてを議論し理解を深めるだけでなく、具体的な活動として取り組むことが求められているのです。

さて、職業奉仕委員会の次年度活動方針といたしましては、

- ①職業奉仕について、標準的な考え方を会員の皆様にお伝えするべく、卓話モデルの更なる充実を図ること。
- ②職業奉仕の実践について、各クラブへの事例紹介や助言を行うことを目標として掲げてまいりたいと思います。

会員の皆様にロータリーの誇るべき伝統的な考え方である職業奉仕についてより理解を深めていただき、より積極的に職業奉仕を実践していただけるよう、職業奉仕委員会全員でサポートしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

会員増強委員会

会員増強委員会 委員長 山田 哲也 (川越RC)



国際ロータリー第2570地区は「奉仕の理想」を次世代へ継承し持続可能で活力ある地区運営を実現するため、量と質の両立を重視した会員増強を推進する。単なる人数増加にとどまらず、多様性の確保、会員の参加意識向上、定着率向上を柱とし、各クラブが地域に根ざした魅力のある活動を継続できる体制づくりを支援する。

またクラブ減少を地区全体の重要課題として捉え、会員数の継続的現象や高齢化などの兆候を早期に把握し、ガバナー補佐や関係委員会と連携した伴走型支援を行うことで、クラブの活性化と存続を図る。

さらに地区公共イメージ委員会およびラーニング委員会と連携し、ロータリーの価値や活動を効果的に発信するとともに、会員一人ひとりの学びと成長を促進する「見えるロータリー」「学び続けるロータリー」を実現し、共感と参加を生む好循環を創出することで会員増強と定着につなげていくようにします。

公共イメージ委員会

公共イメージ委員会 委員長 須田 礼子（本庄RC）

2026-2027年度 国際ロータリー メッセージ 持続可能なインパクトを生み出そう



【基本方針】

2026-2027年度国際ロータリーのメッセージ『持続可能なインパクトを生み出そう』のもと、第2570地区全体が一体となり、継続的な公共イメージ向上を図ります。

インパクトは、継続によって価値となります。各クラブの奉仕活動、会員一人ひとりの行動の積み重ねが、ロータリーの公共イメージを形成します。

昨年度はクラブ同士をつなぐ“パイプづくり”を目的にメークアップ等を通じた交流を試みました。その成果と課題を踏まえ、今年度はアプローチを一段整理し、まずは地区委員会活動の可視化と共有を強化することを重点施策とします。

公共イメージ委員会は主体的に前に出るのではなく、各委員会・各クラブの活動を効果的に発信するための「支援型ハブ」として機能します。

地区内の情報を循環させ、委員会同士・クラブ同士の連動を促進することで、地区全体として持続可能なインパクトを創出してまいります。

【活動計画】

1. 地区委員会活動の可視化を目指し、各委員会と連携しながら発信の可能性を探ります。
2. 地区内外に向けて活動の価値と成果を統一感をもってわかりやすく伝えます。
3. 既存媒体を効果的に循環する仕組みを構築します。

社会奉仕委員会

社会奉仕委員会 統轄委員長 金井 福則（本庄RC）



原島生慈ガバナーは、「地域における社会生活の質的向上の目的」とした活動、他の委員会や各クラブとの協同して進めること、特に子どもの貧困問題に取り組むよう指示されました。

私は、社会奉仕の原点とは、弱い立場にある人に手を差し伸べることだと考えます。すなわち、子どもたち、また高齢者、そして、生活に困窮している人々です。

今年度原島生慈ガバナーは特に子どもの貧困問題に重点を置いており、そこで現在、社会問題として注目されているヤングケアラーについて、前年度以上に掘り下げて活動をしていきたいと考えています。

委員会には、地域社会奉仕委員会と子ども家庭委員会の二つの委員会があります。両委員長を中心に、委員会メンバー全員の協力をいただき、委員会一丸となって取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。

国際奉仕委員会

国際奉仕委員会 委員長 廣橋 宣光（深谷東RC）



国際奉仕委員会の意義とは、ロータリーが掲げる「国際理解・親善・平和の推進」をクラブレベルで具体的な行動に落とし込み、会員が国際的視野を広げる機会を創出することにあります。

海外クラブとの交流や共同事業を通じて文化や価値観の違いを理解し合い、相互の信頼関係を築くことは、ロータリーの理念を体現する重要な活動です。また、補助金事業や国際協力プロジェクトを推進し、地域を越えて世界に貢献できる仕組みを整えることも委員会の役割となります。

今後、国際交流を起点に各クラブが持つ魅力や楽しさを共有し、国際奉仕への理解を深める取り組みを進めてまいります。さらに、クラブが参加しやすい国際奉仕事業のメニューを整備し、事例紹介を通じて国際奉仕の価値を広く伝えていきます。地区としては、経験の差に関わらずすべてのクラブが国際奉仕に踏み出せるよう、情報提供や相談体制を強化し、安心して参加できる環境づくりを進めます。また、クラブの垣根を越えて交流する機会を増やし、若手会員や新入会員が国際奉仕に触れる場を広げてまいります。

加えて、地区内クラブ同士が互いの取り組みを学び合い、成功事例を共有することで、国際奉仕の裾野をさらに広げていきたいと考えています。国際奉仕は単独のクラブだけでなく、地区全体が連携することでより大きな成果を生み出すことが可能です。そのためにも、継続可能な仕組みづくりと、クラブ間の協働を促す環境整備を進めてまいります。

委員会は国際交流の架け橋となれるよう努め、複数クラブが共同で参加できる体制を構築し、ロータリー財団や公共イメージ委員会とも連携を深めながら活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

青少年プログラム委員会

青少年プログラム委員会 統轄委員長 高橋 貴子 (行田さくらRC)



青少年プログラム委員会は15歳から18歳を対象とする奉仕活動といたしまして「アクト・ライラ委員会」と「青少年交換委員会」の二つの委員会で構成され、クラブ事業の支援をさせていただきます。

■アクト・ライラ委員会 提唱クラブ

社会奉仕を理念に掲げたインターアクトクラブの活動は、他者に寄り添う想いや、地域社会への貢献等の高いモチベーションを持っています。提唱クラブのご支援により、彼らの活動場所や達成感を向上させられるような年度を目指しています。そのためにもロータリアンの活動や支援内容の周知、事業への参加が大切です。インターアクトクラブの学生を参加させたクラブの事業を多数実施して頂きますと幸いです。

■青少年交換委員会 ホスト/ホストクラブ

青少年交換プログラムでは異文化を理解し、国境を越えた友情を築く事で世界の平和の実現を目指します。2026-2027年度、第56期生が派遣される年度となります。6名の派遣生の交換相手国は「インドネシア」「台湾」「イタリア」「チェコ」「ポーランド」です。1年間のオリエンテーションを行い8月に派遣国に向けて出発いたします。たくましく成長する青少年に期待いたします。

奉仕の心と異文化への理解を育みながら、青少年が大きく成長していくことを願っています。そして、彼らが次世代を担うリーダーとなること。それは世界平和への確かな種まきであると確信しています。

ロータリー財団委員会

ロータリー財団委員会 統轄委員長 細淵 克則（入間RC）



ロータリー財団の使命はロータリー会員が人々の健康状態を改善して質の高い教育を提供し環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて・世界理解・親善・平和を達成できるようにすることです。

ロータリー財団は今年も下記の委員会が活動します。これ等の委員会は3種類の会員の寄付より実施する事が可能となります。

■ポリオプラス委員会

ポリオ根絶に向けた活動を支援して活動への参加を奨励する。

■資金推進委員会

年次基金、ポリオプラス基金、恒久基金における地区のファンドレイジング目標を調整し寄付の方法に理解向上を支援する。

■補助金委員会

クラブによるロータリー補助金の申請を援助し、地区補助金とグローバル補助金への参加を奨励する。

■財団資金管理委員会

補助金参加資格を監督し・適切な資金管理方法の指導に責務を担う。

■奨学学友・平和フェロー委員会

世界理解と親善による世界平和に共鳴した奨学生を募集する。平和フェローシップ・プログラムへの支援と参加をする。

ロータリー財団委員会は財団についてクラブに情報を提供し、財団プログラムへの参加と寄付に対するクラブの意欲を高めるように努めます。各クラブの会長並びにロータリー財団委員長へのお願いを具体的に記します。

クラブの財団への寄付目標を5月末までに報告してください。2026-27年度の寄付目標は会員一人あたりが年次基金150ドル以上・ポリオプラス30ドル以上・恒久基金30ドル以上合計で210ドル以上とします。会員の皆様に寄付目標を達成できるよう働きかけをお願いいたします。

ロータリー米山記念奨学委員会

ロータリー米山記念奨学委員会 統轄委員長 一柳 達朗 (入間RC)



<推進委員会>

委員長 山崎共子 (川越RC)

副委員長 新井裕喜 (羽生RC)

委員 中村重継 (行田さくらRC)

委員 武正進介 (本庄RC)

<学友委員会>

委員長 白井 威 (日高RC)

副委員長 向井宏倫 (鶴ヶ島RC)

委員 東 美栄 (狭山中央RC)

委員 岡部みゆき (坂戸さつきRC)

ロータリー米山記念奨学事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。将来日本と自国、又は世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成する事が事業の使命です。日本のロータリーの父「米山梅吉氏」の功績を記念して、1952年12月、東京ロータリークラブが米山奨学制度を設立し、1954年9月には奨学生第1号としてタイから来たソムチャードさんを受け入れました。1967年7月に文部省（現・文部科学省）を主務官庁とする「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立。米山奨学制度が設立されてから70年以上の歴史を持ち、財団設立から来年で60年になります。

「米山シンボルマーク」

米山のシンボルマークは「ロータリアン」と「奨学生」です。手はそうした「心」を育てるという事業創設の願いが込められています。

「世話クラブとカウンセラー」

日本には約2,200余りのロータリークラブがあります。1クラブ1人の奨学生を受入れ「世話クラブ」となり奨学生となった留学生は世話クラブの例会へ出席する事が義務付けられています。例会で奨学金をクラブ会長から受け取ります。これは米山記念奨学会独自のシステムです。原則銀行口座等への振り込みは行いません。もう一つの特徴は「カウンセラー制度」です。奨学生1人に対し世話クラブの中から1人がカウンセラーとなります。カウンセラーは奨学生個人のアドバイザーです。

2026-2027学年度の米山記念奨学生は、継続奨学生2名、新奨学生16名の合計18名です。前年度より2名の増加になりました。皆様からの温かいご支援ご寄付が形となって表れた結果です。誠にありがとうございます。

受入れ奨学生の人数は皆様からのご寄付によって2年後の受入れ奨学生の数が決まります。寄付額が多くなれば、受入れ奨学生の数も増えます。米山記念奨学委員会では皆様からの善意ある普通寄付＋特別寄付でお一人年間15,000円～20,000円のご支援をお願い致たく存じます。皆様からの寄付金増額のため、委員会として会員の皆様に米山記念奨学委員会の意義と活動を更にご理解して頂くために色々と活動に力を入れて参ります。

一年間ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(1)2026-27年度 地区予算 (案)

款		項 目		金 額			備考 (内訳)
		項	目	款	項	目	
収入の部		収入計		42,150,000			
	地区賦課金 (前期)				21,075,000		14,050円×期首会員数 (1500)
	地区賦課金 (後期)				21,075,000		14,050円×期首会員数
	雑収入						
支出の部		支出計		42,150,000			
外部分担金		小計			945,000		
	ロータリー連絡費				300,000		200円×期首会員数
	ロータリー文庫運営費				300,000		200円×期首会員数
	RJYEM維持協力費				300,000		200円×期首会員数
	平和奨学生支援金				45,000		30円×期首会員数
地区管理運営費		小計			27,765,000		
	地区大会運営費				11,250,000		7,500円×期首会員数
	クラブリーダーシップラーニングセミナー費				1,725,000		1,150円×期首会員数
	エレクト活動費				1,500,000		例年同額
	地区事務所運営費				7,500,000		5,000円×期首会員数
	ガバナー月信発行費				2,000,000		1,600冊/期首、年始、期末 デジタル配信
	会議費及び資料費				2,400,000		
	通信費				1,000,000		
	地区管理運営雑費				250,000		
	地区管理運営予備費				140,000		
地区活動費		小計			13,440,000		
委員会別活動費	地区ラーニング委員会				100,000		
	会議等活動費					100,000	
	RLI委員会				400,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					300,000	
	戦略計画委員会				100,000		
	会議等活動費					100,000	
	地区記念誌委員会				100,000		
	会議等活動費					100,000	
	国際大会推進委員会				200,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					100,000	
	職業奉仕委員会				300,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					250,000	
	ローターアクトクラブ委員会				350,000		
	会議等活動費					50,000	
	事業費					300,000	
	会員増強委員会				350,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					250,000	
	公共イメージ委員会				350,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					250,000	
	社会奉仕委員会				600,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					500,000	
	国際奉仕委員会				400,000		
	会議等活動費					100,000	
	事業費					300,000	
青少年プロジェクト委員会				4,710,000			
インターアクト・ライラ小委員会					660,000	440円×期首会員数	
青少年活動費					3,000,000	2,000円×期首会員数	
青少年交換委員会					1,050,000		
ロータリー財団委員会				900,000			
出版物購入費					100,000		
会合費・セミナー費					600,000		
学友会活動費					100,000		
奨学候補生費用					100,000		
ロータリー米山記念奨学委員会				150,000			
会議費・セミナー費					50,000		
推進委員会					50,000		
奨学学友委員会					50,000		
人道的支援広報費					400,000		
地域活性化広報費					200,000		
危機管理委員会					100,000		
RI会長テーマ推進費					700,000		
規定審議会線入費					200,000		
ロータリー希望の風奨学金					1,000,000		
地区記念誌線入金					200,000		
合同役員会議費					900,000		
姉妹地区交流費					200,000		
地区活動雑費					300,000		
地区活動予備費					230,000		
差引残高				0	---	---	---

2026-27年度 1名当り半期地区賦課金 (案)

(単位：円)

款	目	金額
外部分担金小計	ロータリー連絡費	100.0
	ロータリー文庫運営費	100.0
	RIJYEM 維持協力費	100.0
	平和奨学生支援金	15.0
外部分担金小計		315.0
地区管理運営費小計	地区大会運営費	3,750.0
	クラブリーダーシップラーニングセミナー費	575.0
	地区事務所運営費	2,500.0
	その他地区管理運営費	2,430.0
地区管理運営費小計		9,255.0
地区活動費小計	アクト・ライラ委員会費	220.0
	青少年活動費	1,000.0
	その他委員会活動費	1,783.0
	その他地区活動費	1,477.0
地区活動費小計		4,480.0
合 計		14,050.0

(2)2026-27年度

クラブリーダーシップラーニングセミナー
ホストクラブについて

狭山中央 RC

2026-27年度 送金カレンダー

区分	項目	年額/1人	摘要	納入方法			納入送金先	報告先		
				期区分	金額	期日				
国際ロータリー関係	規定審議会費	\$1.00	7月のみ		\$1×会員数	2026.7.1	三井住友銀行 新宿通支店 (普通) 6733244 国際ロータリー 日本事務局	[原本] 国際ロータリー 日本事務局 経理室 TEL 03-5439-5803 FAX 03-5439-0405		
	R 人頭分 負担金	2026.7.1 現在会員	\$85.50	半期ごと \$42.75	上期	\$42.75×会員数			2026.7.1	
		2027.1.1 現在会員			下期	\$42.75×会員数			2027.1.1	
		比例人頭分負担金	1ヵ月につき 12分の1	※枠外参照	請求に基づき 半期ごとにまとめて				2026.7.1 2027.1.1	
	『Rotary』誌		\$36	標準定款 第15条を参照	上期	\$18×購買部数			2026.7.1	
					下期	\$18×購買部数			2027.1.1	
	R 財団 寄付	年次基金 <個人寄付>	\$100以上	一人\$1,000以上をポールハリスフェロー、 \$10,000以上をメジャードナーと云う。			随時		三井住友銀行 赤羽支店 (普通) 3978101 公益財団法人 ロータリー日本財団	[写し] 送金票のコピーを 地区事務所へ
		年次基金 <クラブ寄付>	\$50以上	半期ごと \$25以上	上期	\$25以上×会員数	7月中			
					下期	\$25以上×会員数	1月中			
		ポリオプラス <クラブ寄付>	\$30以上	半期ごと \$15以上	上期	\$15以上×会員数	7月中			
					下期	\$15以上×会員数	1月中			
		恒久基金 <クラブ寄付>	\$30以上	半期ごと \$15以上	上期	\$15以上×会員数	7月中			
下期	\$15以上×会員数				1月中					
	ベネファクター <個人寄付>	恒久基金へ\$1,000以上を寄付した人。 遺贈の受取人をロータリー財団と指定した人。				随時				
友 関係	ロータリーの友	¥3,300×会員数 ※消費税の変更に伴い変更有り 中途入会者は 月割1部 ¥250+消費税		上期	¥1,650 課税により変更有り	2026.7.1	三井住友銀行 浜松町支店 (普通) 7450015 一般社団法人 ロータリーの友事務所	(申込先) ロータリーの友 事務所		
				下期	¥1,650 課税により変更有り	2027.1.1				
R 米山 記念 奨学会	普通寄付金	目標1人 ¥4,000以上	増額の場合は ¥1,000単位で	上期	¥2,000以上×会員数	2026.7.1	三井住友銀行 京橋支店 (普通) 0920373 (公財) ロータリー 米山記念奨学会	[原本] (公財) ロータリー 米山記念奨学会		
		特別寄付金	特別寄付は、個人・法人・クラブからの、普通寄付金以外 の任意寄付。金額に決まりはなく、ロータリアン以外の方 からもお受けします。<米山豆辞典参照>			随時				
地区 関係	地区賦課金	¥28,100		上期	¥14,050×会員数	2026.7.1	埼玉りそな銀行 秩父支店 (普通) 4737196 国際ロータリー 第2570地区	[送金明細] 地区事務所		
				下期	¥14,050×会員数	2027.1.1				

金融機関電話番号

三井住友銀行 本店 03-3501-1112	三井住友銀行 新宿通支店 03-3352-4131
三井住友銀行 京橋支店 03-3561-3191	三井住友銀行 赤羽支店 03-3901-3104
三井住友銀行 浜松町支店 03-3436-2781	埼玉りそな銀行 秩父支店 0494-22-3850

※比例分負担金は月割でお支払い頂きますが、途中入会の方が居る場合にクラブ側で計算して先払いする事は避け、入会報告のみにして下さい。
後日RI本部から請求が来ますので、それに従って送金して下さい。

